

## 論点を提示する

以下の文章は個人の感想を述べており、一般的な論点を提示できていない。文章から一般的な論点を抽出し、それについて論じる文章に修正せよ。

〇〇大学図書館は罰金制度を採用するべきだと私は思う。現在の〇〇大学図書館は、本の返却が遅れるたびに罰則点がたまっていく方法をとっているようである。図書館のウェブ・ページを見てみると、罰則点がある程度たまると、貸し出しができなくなる、と書いてあることが分かった。当然のことながら、試験前に貸し出しができなくなると困るので学生が本を返すだろうという考え方であろう。

しかし、この方式には問題があるのではないだろうか。本を借り出す学生はまじめな学生が多いので、図書館に眠りに来るような学生よりもまじめな学生の方が貸し出し停止処分になる可能性が高いだろうと考えられる。これではまじめな学生に図書館を利用するなど言っているようなものではないだろうか。

それに対して罰金制度には利点があると思う。遅れた日数一冊一日 10 円ぐらいの罰金を課せば、学生もこまめに本を返すだろう。それに、図書館も収入が増える。よく読まれる本を2冊3冊買うお金も罰金制度なら捻出できるのではないだろうか。

「～式生活術」は、もうやめよう

書店に行き女性向けの文庫本コーナーに行くと、『～式生活術』というようなタイトルの本がよくある。『イギリス式生活』『ドイツの主婦に学ぶ』『フランスマダムの暮らし』といったような書名の本が売れているようである。お手本にされる国はヨーロッパが多いのではないか。

しかし、私はこうした風潮には大きな疑問を感じている。日本とヨーロッパでは風土も違うし、食べ物や文化も違うであろう。それなのに、なぜ、ヨーロッパの生活をお手本にしよう、という本がこんなに書かれるのか、私にはわからない。日本にも日本の生活術があったのではないだろうか。

こうした「ヨーロッパ式生活の薦め」が流行るのは女性向けの雑誌のせいかもしれない。私は女性向けの雑誌を読むことはほとんどないのだが、欧米風のキッチンや部屋を美しく撮った写真であふれているというイメージがある。

英語を小学校のときに学ぶことが良いのか、と問われると、「うーん、微妙だな」と思ってしまう。確かに早い時点から外国語を勉強した方が良いのかも知れない。私だって、小学校で英語を習っていたら、今頃英会話学校に行かなくても良かったのかも知れない。

しかし、私はやはり小学校から英語を勉強することが良いとは思えないのである。多くの人にとって小学校というのは、まだテストの点にきりきりしなくても良かった幸せな時代なのではないだろうか。そんな子供時代に単語テストや文法テストをさせるということは本当に良いことなのだろうか。もう一度考え直してみるべきなのではないか、という気持ちが拭えない。

#### 作文教育について

私が作文教育を受けた時期は、小学校や中学校の読書感想文や絵日記などで教わった。まあ、皆さんもそうだと思うが、日本人は普通、この作文教育を受けているんじゃないかと思う。しかし、実際に何を教わったのかを考えると、実は何も思い出すことができない。記憶がすごく曖昧なのだ。

かろうじて思い出せるのが起承転結をしっかりしろと教えられたことぐらいだろうか。作文教育は行動情報化社会で大切なものであり、ゆえに妥当性も有効性もないといってもよいのではないだろうか。

大学ではレポートを書くよりもサークル活動をするほうが楽しかったし、それがまた充実した学生生活だとも勘違いしていたことを今になって公開している。しかし大学側も学生に文章の書き方を教育することや、環境には気を配っていなかったと思う。いつも楽をして単位をとることばかり考えていたので今急に逆の行動を取ることになってしまって戸惑ってしまう学生も少なくないだろう。

この講義では修士論文として認められるようなきちんとした学術論文の書き方を学びたいと思っている。大学の4年間を含めてそのような機会はいままでなかったのでよろしくおねがいします。

以上